

2010年「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」ユース派遣事業

～エジプトから世界に向けて『非核平和』のメッセージを発信～

ジャパンアートマイル

ユネスコの「平和の文化10年プロジェクト」として認定されている The Art Miles Mural Project (本部アメリカ) が、エジプトのカイロで「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」を開催した。ジャパンアートマイル (JAM) は「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」で日本の作品を展示するとともに、日本のユースを派遣して唯一の被爆国から『非核平和宣言』を世界に向けて発信した。

1 概要

カイロで開催された「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」で日本の作品13点を展示し、JAMが派遣した日本のユースがオープニングで世界に向けて非核平和のメッセージを発信した。

また、国際教育を推進している NGO と「非核平和ユース会議」を開催し、双方のユースの非核平和の意識を高めるとともに、友好を深めた。

さらに、日本大使館を訪問して『非核平和宣言』を発表し、エジプトにおける日本の支援について学習した。

[日程と場所]

9月21日 「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」

[場所] El Sawy Cultural Wheel

9月22日 「非核平和ユース会議」

[場所] Kobet El Ghory

9月23日 日本大使館表敬訪問

[参加者]

全国から選抜したユース8名(鹿児島・長崎・広島・兵庫・愛知各県から中学生・高校生・大学生)とJAMスタッフ5名
計13名

[助成]

(独)国際交流基金

[後援]

外務省・文部科学省・日本ユネスコ国内委員会・
広島市・長崎市・中国新聞・神戸新聞

2 経過

(1) 派遣ユース募集・選考 [7月]

中学生・高校生を対象に、全国都道府県の教育委員会と政令市・東京23区・各県主要都市の教育委員会宛に募集案内を送付して、派遣ユースを募集した。

大学准教授・ジャーナリスト・(独)国際協力機構職員・IT企業経営者・JAM事務局で構成する選考委員会において応募者から提出された小論文(テーマは「非核平和」、言語は日本語と英語)を審査して4人のユースを選考した。4人の派遣費用はJAMが全額負担とした。

選考外となったが意欲が高く小論文が選考基準を満たすユース4人を派遣メンバーに加え、JAMが費用の半額を助成することとした。

(2) 『非核平和宣言文』の協議 [8月]

ユースはJAMが用意したメーリングリストを活用して非核平和についてそれぞれの意見を出し合い、『非核平和宣言文』作成に向けて議論した。

広島の「せこへい美術館」では中学生・高校生の有志が非核平和の祈りを込めた壁画を制作した。その壁画は先に鹿児島の中学校で制作された非核平和の壁画と一緒にオープニングセレモニーの舞台上で披露する壁画である。

(3) 非核平和宣言文の作成 [9月]

ユースは全員の想いを集約して『非核平和宣言文』を完成させた。日本語の宣言文を全員で分担して英訳し、全体を調整して一つにまとめ、ネイティブチェックを経て英語版を完成させた。

広島と鹿児島で制作された2枚の壁画に込められた非核平和メッセージも日本語版と英語版で作成した。

3 エジプトで非核平和メッセージ発信

(1)「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」

国連の「国際平和の日」(9月21日)のピースイベントとしてエジプトで開催された「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」では、アートマイル壁画の展示とオープニングセレモニーが行われた。

[日時]

2010年9月21日 9:30pm~0:00am

[場所]

カイロ市内 El Sawy Cultural Wheel

[主催]

Art Miles Mural Project, The Suzanne Mubarak Women's for Peace International Movement, El Sawy Culture Wheel

[共催]

Japan Art Mile, Art Miles France, American Center Alexandria, Peace One Day, Unity Foundation



①展示

MURAMID 展の会場で世界の壁画と一緒に日本の作品13点を展示した。

非核平和の壁画「Prayers for Peace」と「Prayers for Life」は、オープニングセレモニーの舞台上で平和への祈りのメッセージと共に披露した。



②オープニングセレモニーで『非核平和宣言』

オープニングセレモニーでは、日本のユースによる『非核平和宣言』が中核プログラムとして位置付けられ、世界中から注目された。



日本のユースは、世界で唯一被爆国の若者として自分たちが強い思いを持って作成した『非核平和宣言』を世界に向けて発信した。

その様子はアメリカから取材に来た Unity Foundation (国連イベント取材班)により中継され、世界中の2億人が見るサイトでライブ放送された。またエジプトのメディアでも取り上げられ、国営放送・ローカルテレビ・新聞で紹介された。



①日本側のプレゼンテーション

日本側が世界平和を願って世界の国々と進めているアートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト(IIME)を紹介した。

- ・塩飽隆子 (JAM 代表)

「JAM の理念と活動」

- ・稲垣忠 (東北学院大学)

「アートマイル国際交流壁画共同制作(IIME)の概要」

- ・清水和久 (金沢星陵大学)

「IIME の実践事例」

「日本からのビデオメッセージ」

(2) 「非核平和ユース会議」

9月22日、カイロの歴史的な建物が並ぶ地区で日本とエジプトのユースによる「非核平和ユース会議」が開催された。

[日時]

2010年9月22日 3:30pm~8:30pm

[場所]

カイロ市内 Kobet El Ghory

[主催]

Japan Art Mile、E-era、iEARN Egypt



エジプト文化省から Hossam Nassar 次官と Amir Samir 前調整官、Kobet El Ghory Creative Center から Entessar Abdel Fattah 局長が来賓として出席し、未来を担う両国のユースに、「これからの国際社会で平和に貢献するように」と期待と励ましの言葉が贈られた。



②日本のユースの非核平和メッセージ

日本のユースは自分たちが作成した『非核平和宣言』をエジプトの同世代に向けて力強く発信した。

また、2枚の壁画「Prayers for Peace」「Prayers for Life」を絵に込められた平和のメッセージと共に披露した。



③エジプトのユースの非核平和メッセージ

エジプトのユースは核の脅威と平和利用について発表し、自分たちが世界の平和のために何かを始めようと呼びかけた。

両国のユースは、核によらない平和構築が大切であること、そして平和な未来を築くために自分たちにできることをしようという思いを共有した。



④文化交流

日本のユースは持参した日本のお菓子、浴衣、折り紙などを通して積極的にエジプトのユースと意思疎通を図って、友好を深めた。



エジプトのユースは「カルチャーショー」で日本のユースを歓迎した。エジプトの伝統的な遊びや踊りを舞台上で披露し、日本のユースを舞台に誘って一緒にエジプトの踊りを踊った。



(3) 日本大使館表敬訪問

カイロの日本大使館を訪問してユース派遣事業の成果を報告し、非核平和のメッセージを発表した。また、日本のエジプト支援について学んだ。

[日時]

2010年9月23日 2:00pm～3:00pm

[場所]

日本大使館

①ユース派遣事業の報告

「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」と「非核平和ユース会議」において日本のユースが世界に向けて非核平和のメッセージを発信する事業が成功し、エジプトのユースと交流して友好を深めたことを報告した。

また、大使館においても『非核平和宣言』を発表した。

②日本とエジプトの関係について学習

日本大使館の広報文化センター長から日本のエジプト支援について学習した。これまでエジプトといえばピラミッドしか思い浮かばなかったユースたちは、日本はエジプトの最大支援国のひとつであること、両国の良好な関係が中東の安定に大切であることを知った。

センター長が言われた「核兵器を否定した後に、未来に向けて何を提示できるのか、是非みなさんも一緒に考えて下さい」という言葉をユースの一人ひとりが心に刻んで、帰国した。



③大使館で作品展示

大使館訪問時に 2 枚の非核平和壁画を大使館で展示したいとお話があり、作品を預けて帰国した。その作品は 10 月に大使館で開催された第 2 回 JEN (Japan Egypt Network) オープンサロン『文化としてのヒロシマ』で展示された。



4 成果と課題

(1) 成果

本事業の目的である「平和の祭典アートマイル MURAMID 展」での作品展示と世界に向けて非核平和のメッセージ発信について十分に達成できた。

①展示

MURAMID 展で JAM の作品 13 点を展示した。日本と海外の学校が共同制作した IIME 作品 11 点は、日本の子どもたちがエジプト・シリア・ヨルダン・イタリア・パキスタン・インドネシア・台湾・アメリカ・カナダの子どもたちと一緒に描いた作品である。

非核平和の作品 2 点は、舞台上で平和のメッセージと共に披露した。

②非核平和のメッセージ発信

オープニングセレモニーでは、日本のユースは自分たちの『非核平和宣言』を力強く発表した。自分たちが平和を考えることの意義、自分たちの思いを世界の人々に伝えることの意義を実感した。帰国の機内で全員が「この貴重な体験を自分の将来に活かしたい」と語った。

ユースの非核平和メッセージは、国連の「国際平和の日のピースイベント」として世界中の 2 億人が見るサイトでライブ中継され、エジプト国内のテレビや新聞でも報道された。メディアを通して広く世界中に非核平和を訴えることができた。

「非核平和ユース会議」では、エジプトのユースと自分たちが築く未来の平和について語り合い、友好を深めることができた。ユースだけでなく参加した日本とエジプトの教育関係者たちも今回の交流事業を通してお互いに多くの友人を作ることができた。エジプトで 2011 年 1 月から 2 月にかけて起きた反政府デモに多くの若者が参加し負傷者も出たことを知った日本の参加者たちは、エジプトの友人たちを心配してメールで安否を確認し、友人のいる国としてエジプトの行方を見守っている。世界で起きていることに関心を持ち、自分に何ができるかを考えるようになったことは今回の派遣交流事業の大きな成果である。

(2) 課題

課題は、今回のユースたちの繋がりを今後どのように支援していくのかということである。

今回エジプトで貴重な体験をしたユースたちが「いい経験をした」だけで終わるのではなく、今後さらに広く世界で起きている出来事に関心を持ち、グローバルな視野を持って世界で活躍する人に育つように、JAM は彼らをいろいろな場面で支援していきたい。